

やさしさのパワーで平和に

浦添市立港川小学校三年 與座 諒真

「この音は、むかしを思い出すからきらい。ぼくだんがおちてくるみたいでこわい。」

石がきじまの親せきのおばあちゃんが、うち上げ花火を見たときに言いました。ぼくは、びっくりしました。なぜなら、花火はおまつりで見える楽しいもので、きれいなものだと思っていたからです。でも、おばあちゃんにとっては、こわい思い出につながる音でした。せんそうのこわくてつらい思いは、長い時間がたっても、心の中にのこるということを知りました。

ぼくは、家ごと平和きねんしりょうかんに行きました。てんじ室に入ると、ひこうきやばくだんの音が聞こえて、まるでせんそう中みたいで、とてもこわかったです。道で子どもがたおれているしやしんを見たとき、心がくるしくなりました。おきなわせんでは、日本やほかの国の人を合わせて、二十万人ものいのちがなくなったと知りました。数の多さにびっくりしました。

平和のいしじにも行きました。お母さんが「このいしじには、できもみかたもかんけいなく、おきなわせんでなくなった人の名前がきざまれているんだよ。」

と教えてくれました。いしじには、ぼくの親せき三人の名前も

あります。三人は、まぶにと、ごえくしゅうようじよというところ でなくなったそうです。ぼくは、いしじの前で手を合わせました。せんそうがなければ、会えていたのかな？と思いました。名前を見て、せんそうはとおいむかしの話ではないと思いました。

ぼくは学校で友だちとけんかをすることができました。けんかすると、家に帰ってもいやな気もちでした。すぐあやまればよかったと、こうかいしました。でもしりょうかんで見たこと、いしじの名前、おばあちゃんの話の思い出すと、せんそうにくらべたら小さなこと だなと思いました。だからすぐおこるのはやめようと思いました。お母さんが、

「いかりのパワーをつかうよりやさしさのパワーをつかう方が気もち いいよね。」

と言いました。ぼくもそうだと思いました。いかりのパワーがどんな 大きくなると、せんそうにつながるかもしれないから、ぼくは友だちにやさしくしたいと思いました。

せんそうは、大切ないのちも、ゆめも、えがおもぜんぶうばいます。だからもうおきてほしくないです。ぼくはこれからは、いかりのパワーじゃなくて、やさしさのパワーをたくさんつかいたいです。やさしさのパワーがたくさんの方の心にあったら、せかいはきっと平和になると思います。ぼくは、いしじにきざまれたたくさんの方の分まで、いのちを大切に生きていきたいです。